

環境活動こそが復興への第一歩！！「エコハートで生活の復興につなげ、みんなで復幸を作ろう！！」広西エコパワー2016

2 行 動

広西エコパワー2016～日常の環境活動からわたしたちの復興へ～

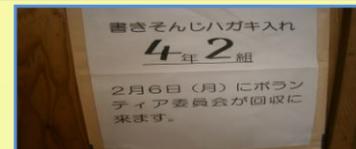
全校行動目標の「自分の物に名前を書きます」「水・電気の節約をし、ごみや残菜を減らします」の項目を、エコハート①「広西エコパワーで学校や地域の復興へ！」と関連させ、日常の生活こそが環境活動であり、復興への活動であることに気づいてもらえるような7つの活動を展開している。

1 委員会パワー

学校生活を支える15の委員会が、今年度も環境目標を掲げて、さらなる学校生活の向上に努めている。

生活委員会→自分の物に名前を書く ・昼休みに電気を消す・コップで水を飲む	保健委員会→物をむだにせず、水を大切に
ベルマーク委員会→委員会中に電気を1カ所消す・チョークを無駄に使わない	整備美化委員会→ごみ拾いをする
給食委員会→牛乳パックのリサイクル・食べ物の残りを減らし、生ゴミを減らす	掲示委員会→掲示物ははずれている物ははりなおす
体育委員会→昼休みは、外で遊ぶときに、教室の電気を消す	放送委員会→節電・節水呼びかける放送をする
音楽委員会→節電・大声を出すことで体を温める	ボランティア委員会→水を飲んだ後はジャロを下に向ける
図書委員会→本がいたまないように大切に扱う	運営委員会→つけっぱなしの電気を消す
人権委員会→水を大切に	環境委員会→全校の環境意識を高める
栽培飼育委員会→水を大切に	

委員会活動こそが環境活動であり、それぞれの委員会で実施する活動が環境活動と関係していることを意識できるようにするために、各委員会の環境目標を掲げている。



(ボランティア委員会の取組)

2 おとしものマーケットパワー

校内でも多い落とし物。ごみにならないように取り組んでいる。

○おとしものマーケット
校内で出た落とし物をホールなどに広げ、自分の物や友だちの物を確認する機会にしている。



○おとしものがなくなるには・・・？
落とし物をしないために実験を行い、いつも自分の物を確認するとよいということが分かった。



3 電気・水節約パワー

本校が一番基本としている環境活動である。全校で毎日取り組んでいる。

○電気の節約の取組
休み時間や昼休みの消灯、必要以外の冷暖房は消すなど電気の節約に取り組んでいる。



○水の節約の取組
水をよく使う掃除の時間など必要以外の水は使わないことを徹底している。



広安西小学校版環境ISOに向けての計画と組織



○環境教育全体計画では、熊本地震後の学校や家庭での生活、地域の状況を確認しながら、広西エコパワーの取組や水俣に学ぶ肥後っ子教室、持続可能な開発のための教育(ESD)に弾力的に関われるよう作成した。

○組織図では、学校・家庭・地域が連携し合えるように作成し、熊本地震後、三者ができることから環境活動を進めていった。

1 宣 言

広安西小学校 学校版環境ISO宣言目標

【全校行動目標】
○自分の物に名前を書きます
○水・電気の節約をし、ごみや残菜を減らします
○川やわき水を大切にします
○広西校区の文化遺産を大切にします



【職員行動目標】
○帰る前のシャットダウンを心掛けます
○1 Sheet 1 heart (紙1枚を心込めて) を心掛けます

できそうな数値を立てる

【数値目標】
○電気代を前年の同じ月と比べて1万円少なくします
○水道代を前年の同じ月と比べて1万円少なくします
○ごみの量を毎日17kgを超えないようにします

できることからやってみる

【手立て】
○休み時間や昼休みは電気を消す ○使わない時は電気を消す
○持ち物に名前を書く ○弁当給食の食べ残しを少なくする
○校区の文化財を大切にす ○水を出しっぱなしにしない

全校行動目標では、自分の物に名前を書く、水・電気の節約、ごみや残菜を減らすことは主にエコハート①を、川やわき水、広西校区の文化遺産を大切にすることはエコハート②やエコハート③と結びつけている。職員行動目標では、主に電気や紙について無駄に使わないように心がけている。



(紙の切れ端もとっておく)

「広西エコパワー2016」成功に向けて

昨年度までの環境課題の把握～培ってきた3つのエコハート～

日頃から環境と関わって生活していることを、全校一人ひとりが気づいていけるようにする。

気づくハート

さらに環境のことを知り、自分や周りの人々の生活が向上していくようにする。

知るハート

自分たちを取り巻く自然や地域を見つめ、未来も自然や地域を守っていくようにする。

見つめるハート

これまで3つのエコハートを培ってきた

今こそエコハートで復興の第一歩にしよう！！

今年度は、平成28年熊本地震からスタートした。益城町は2度の震度7に見舞われ、学校生活をはじめ、家庭生活や地域での活動がこれまでとは一変した。学校も避難所となり、児童も家族も地域の方々も共に生活していく中で、児童は率先してごみの回収をしていた。エコハートは確実に培われており、今年度はさらにエコハートを育て、復興の第一歩にしようと考えた。



今年度のポイントは・・・

エコハートで生活の復興を！！～学校版環境ISO重点項目～

エコハート①広西エコパワーで学校や地域の復興へ！

- 7つの広西エコパワー活動
- ・落とし物マーケットパワー
- ・環境体験パワー
- ・クラスパワー
- ・委員会パワー
- ・節約パワー
- ・環境の日パワー
- ・家庭連携パワー



相互の関わり

エコハートで豊かな復興！！

相互の関わり

エコハート②水俣のくらしから学校や地域の復興へ！

- 日頃から水俣を知る活動
- 現地学習
- 水俣を伝える活動



相互の関わり

エコハート③地域をよく見つめて未来へのさらなる復興へ！

- 広西わき水プロジェクト
- 校区の宝ピフォーアフター



4 環境体験パワー

身近に使っている物がリユースされることで、さらに興味をもってもらいたいと環境委員会の児童が全校に呼びかけ、昼休みにホールで活動をしている。

【たこさんたわし作り】

多くの児童から人気を集めているたこさんたわし作り。毛糸をたこ状につくったアクリルたわしである。水や洗剤をあまり使うことなく皿洗いなどができる。



【紙の切れ端でしおり作り】

いらなくなった紙の切れ端に自分の好きな絵や文字を書いてしおりにしていく活動である。



環境体験活動を通して、異学年間での教え合いなど交流も図れている。今後も続けていきたいと考えている。

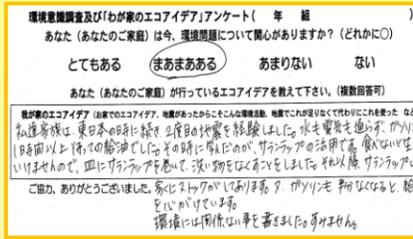
5 クラスエコパワー

各学級で実態に合わせた環境目標を決めて活動を行っている。今年度の各学級目標には、熊本地震の影響によりしばらくライフラインが途切れたことから、水や電気の節約についての内容が多く示されていた。



6 家庭エコパワー

家庭向けに出している環境通信「広西エコパワー通信」より、エコアイデアを募集した。今年度は地震と環境を関係づけたアイデアが多く、今後この環境通信から学校と家庭の環境活動による連携がとれたらと考えている。

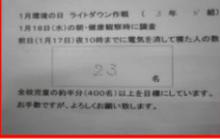


7 環境の日パワー

本校では、毎月1日を「環境の日」として、全校で改めて環境について考え、全校一斉で環境活動を行っている。

【広西ライトダウン作戦!!】

冬休みなど長期休みの後に、節電と早寝早起きの推進のために取り組む。夜10時までに電気を消して寝ることを全校に呼びかけた。



【ペットボトルキャップ集め】

学期に一度全校に呼びかけ、登校後児童昇降口で集めている。集めたキャップはリサイクルをする会社に送り、再利用してもらっている。



水俣のくらしから～水俣のくらしを学び、わたしたちのくらしの復興へ～

全校行動目標の「川やわき水を大切にします」「広西校区の文化遺産を大切にします」の項目をエコハート②水俣のくらしから学校や地域の復興へ!と関連させ、環境都市である水俣市のくらしを学び、学校や地域の復興に繋がられるようにした。

【水俣21分別から学ぶ】

水俣市で取り組んでいる21分別の写真を掲示し、自分のくらしと重ねて水俣の人々のくらしについて理解を深めている。



【児童や職員の学び】

児童は5年生が実際に現地に行き、水俣の人々のくらしを学んだ。職員も現地に行ったり研修を行ったりして、水俣の人々のくらしを学んだ。



水俣のくらしを伝えよう

5年生児童は、現地で学んだことやそこから自分のくらしと重ねて取り組んだ環境活動について、壁新聞にまとめて学んだことを広く伝えていこうとする取組を行った。



地域をよく見つめよう!!～未来へのさらなる復興へ～

全校行動目標の「川やわき水を大切にします」「広西校区の文化遺産を大切にします」の項目をエコハート③「地域をよく見つめて未来へのさらなる復興へ!」と関連させ、熊本地震により一変した熊本県や益城町、そして広安西校区のよさを最大限に引き出し、未来への復興に繋がられるような活動を進めている。

【広西わき水プロジェクト】

阿蘇からのわき水が校区に出ていることで、環境委員会が中心となってわき水を守り、未来へ残す取組を行っている。

【わき水水質調査】

わき水については、4年前から本格的に取組を始めているが、熊本地震の影響により、水質に何か課題があるかもしれないと思い、環境委員会が6月から水質を調べ始めた。しかし、これまでは大きな水質の変化はなく、PHがほぼ7を示し、綺麗な水の状態が続いている。



【わき水ふれあい掃除】

わき水ともしっかりふれ合おうと、可能な時間を見つけ、環境委員会の児童がわき水周辺の清掃活動を行っている。



【わき水で校内掃除】

わき水のよさを全校に広めようと、環境委員会の児童がわき水を学級数分汲み、掃除時間に使うよう全校に呼びかけた。



【校区の宝ピフォーアフター】

昨年度、「未来へ残したい校区の場所」のアンケートを環境委員会が実施し、多く書かれていた名前の場所の清掃活動を行った。清掃場所はもともと綺麗であったがさらに綺麗になった。



3 記 録

記録では、電気や水の節約、ごみの減量、各学級による宣言文のチェックを行った。

【電気・水の節約チェック】

電気や水の節約チェックは、定期的に環境委員会が行っている。



今年度は、熊本地震の影響により、ライフラインとなる電気と水が止まったこと、また避難所として学校が機能していたことから、実際には9月から前年度までの比較をしてきた。



電気代については、今年度より冷暖房を使用していることから今年度は上がっているが、9月以降は確実に下がっている。水道代については9月以降大幅に減らすことができた。今後も日々の取組を大切にしたい。

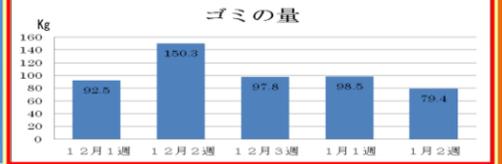
【ごみの減量チェック】

ごみの減量は、毎日登校後に調べている。

今日はどのくらい重さになるかな?



(ごみの減量グラフから) ごみの量が大きく増減していることから、さらなるごみ減量の活動が必要である。



【クラスの環境目標チェック】

各学級で決めた環境目標について、学級の一人ひとりがきちんと環境目標について心がけていたかのチェックを行った。今後も各学級で環境目標を意識し、目標に近づけられたらと感じている。

広西エコパワーコンクール

- 自分の物に名前を書いた人 27人
- 水・電気の節約とごみ減量を行った人 45人
- 学級の環境目標が守られた人 15人

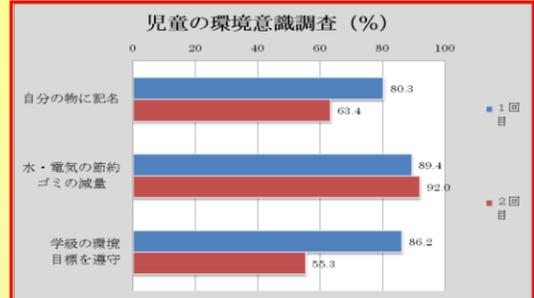
(5年1組)

4 見 直 し

記録からの見直しについては、環境委員会の活動時に委員それぞれが行うほか、環境委員会全員の話し合いで、成果と課題を出し合った。また、全校児童や各家庭へのアンケートも実施して今後の環境意識の向上に努めた。

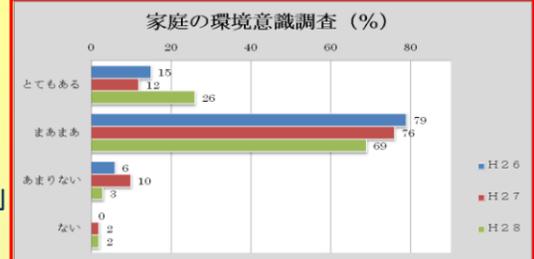
【児童の環境意識調査からの見直し】

児童の環境意識調査を2回実施した。「自分の物に名前を書く」の項目と「学級の環境目標を守れたか」の項目については1回目よりも2回目の方が下がっていた。1回目では意識していたことも、2回目になると慣れてくることから、意識が低下してくるのではないかと考えた。しかし、「電気や水の節約とごみの減量」については高い数値で上がっている。今後はどの項目も伸びていけるような取組を考えていきたい。



【家庭の環境意識調査からの見直し】

過去3年間の調査の中で「まあまあある」と答えた家庭は今年度が一番低かったが、「とてもある」と答えた家庭は今年度大幅に伸びた。また、「あまりない」や「ない」と答えた家庭も今年度が一番少ない。家庭の環境意識では年々意識されている家庭が増えており、今後も環境通信等でさらに連携を深めていきたいと考えている。



【成果と課題】

水道代や児童の環境意識調査のグラフで分かるように、水道代が大幅に減り、「児童の電気や水の節約、ごみの減量」の意識の項目が高い数値で伸びていることから、今年度児童が一番取り組んだ環境活動は、「節水」であると考えている。これは熊本地震の時に誰もが必要と感じた「水」について、児童一人ひとりが考え、大切さを改めて実感したからであると考えている。今後も「復興＝生活＝環境活動」としてから、広西のエコハートでさらに復興を進め、「復幸」にすることができたらと考えている。